

平成 31 年 3 月 25 日開催

I-1-3 個別相談会

道の駅はなわ「はなわふるさと農産物・物産直売所」に出店してしる方々との個別相談会の開催

会場：埴町道の駅会議室

担当：荒木裕子、佐々木敬卓、吉田光一、山本直子、上浦沙友里

【目的】

受託研究の一環として食品衛生講習会や調理講習会等を開催しているが、今回は道の駅で商品を販売している生産者の方々と対面方式で、生産している食品に関する質問や今後の商品開発へのアドバイス等を個別面談方式で実施した。予め面談スケジュール表を作成し希望時間で個別相談を行った。

【方法】

面談スケジュールの希望時間並びに相談内容を予め作成していただき、当日は道の駅で販売している商品を確認しながら相談に応じた。なお、持参された商品については買い取る方式で実施した。持参していただいた商品についてはその重量や表示方法の確認、商品全体の写真撮影を行った。個別面談は1件当たり30分とし、自由に情報交換した。

【結果】

面談希望件数は12件であり、当日10件の面談を実施した。質問内容で最も多かったのは、賞味期限の設定であった。賞味期限を実際には経験と勘で賞味期限を決定させる方法が多く、また保健所が行う細菌検査結果を参考に賞味期限を設定する事例が多くみられた。保存期間を設定し各期間における検査等はまだされておらず、化学的な手法を用いた賞味期限設定は、今後の課題である

また、佐々木特任教授からは次の通り、研修結果が示された。

包装商品化に必要なこと

東京聖栄大学 佐々木敬卓

- I 包装商品化の基本要素
- II 包装商品化とガス（空気）
- III 包装商品と光・温度
- IV 包装商品と品質
- V 包装商品と消費・賞味期限
- VI 包装商品と表示

今回の大学としての事業展開について

I 埴町道の駅に商品を納入している人の悩み相談

- 1) 相談に来た方にとって非常に役に立つ素晴らしい事だと感じた。
継続すべき事業と思う。
- 2) 以下に記載する事との連動性も考える必要があるかも知れない。

II 相談に来た方とその相談内容等から感じたこと

- 1) 皆さん結構、類似した悩みや知らない事が多いのかも知れない。
 - ① 安全・衛生・安心に関連する考え・対処の方法。
 - ② 消費・賞味期限とは何か、どのようにして決めるのか方法等。
 - ③ 包装商品の開発・検討方法（どうやって行うか）
 - ④ 衛生に関連する対応（生物的・化学的・物理的）内容・方法。
 - ⑤ 真空・密着・シール・表示とは、どのような意味・効果がある？
 - ⑥ 充填包装温度と保存の関係
 - ⑦ 包装商品とは何か、機能・意味・効果
- 2) 納入者（会員？）全員を対象にした研修が必要かも
今回のような個人対象の悩み等の相談も大変大切であるが
 - ① 会員（納入者）に義務化する形で、同じ方向を目指す必要ある？
 - ② 衛生関連の考え方
 - 1：手洗いの方法。
 - 2：製造道具の洗浄・殺菌方法。
 - 3：作業衣のあり方、意味・目的・機能。
 - 4：毛（頭・鼻・脇・・・など）衛生性と異物との関係。
 - 5：微生物について。
 - 6：温度・空気・水蒸気変化と圧力と微生物・異物の関係。
 - 7：包装材料と衛生の関係
 - ③ 製造会社（家）の視察と勉強会
 - 1：製造現場における安全・衛生の関係意見・情報交換。
 - 2：製造室のあり方、室内外との関係。
 - ④ 義務化した研修の必要性
 - 1：会員には、1回～2回/年 必ず研修（同じ感度）受ける。
 - 2：研修を受ける事が道の駅に物を納入・売れる資格に。
 - 3：会員に安全・衛生・安心に対する同じ意識付け

